

## 11. COVID-19 感染拡大による 行動自粛がアルコール性 肝疾患患者に与えた影響

埼玉医療センター 消化器内科

舟田 圭, 桑田 潤, 松本純一, 太田貴寛,  
岡田 舜, 早川富貴, 藤原 猛, 鈴木優仁,  
玉野正也

【目的】2019年12月頃に発生した新型コロナウイルス感染症 (Coronavirus Disease 2019: COVID-19) は, パンデミックを引き起こし世界中で甚大な被害をもたらした。

本邦では2020年4月7日~5月25日の期間緊急事態宣言が出され, 社会生活における行動制限が強いられた。失業・自殺する者も多数現れ, 精神的影響も計り知れないものと考えられた。

今回我々は, COVID-19 流行がアルコール肝障害 (alcoholic liver disease: ALD) に与えた影響について検討した。

【方法】2020年2月までを COVID-19 流行前, 2020年3月以降を COVID-19 流行後として, 以下の検討を行った。

検討1: 流行の前後で通院を継続した ALD 患者を対象とし, 流行前後で通院した ALD 患者を対象に飲酒状況と血液生化学検査の変化を検討した。

検討2: COVID-19 流行前の1年間に初診した ALD 患者と COVID-19 流行後に初診した ALD 患者の背景を比較した。

【結果】検討1: 流行前後で通院していた患者は95例。平均年齢は57.6歳, 男性73例, 女性22例。観察期間中の飲酒状況は禁酒継続が43例, 通常同様の飲酒が32例, 飲酒量増加が20例であった。95例全体で検討すると, COVID-19 流行前に比して COVID-19 流行後では, AST, ALT, LDH, GGT が有意に上昇し, 血小板と PT% は有意に低下していた。検討2: 2019年に初診した患者は28例, COVID-19 流行後から2020年7月までに初診した患者は12例であった。両群間に年齢, 性別に有意差はなかったが, AST, ALT, 総ビリルビンは COVID-19 流行後初診群で有意に高値であり, 血小板は有意に低値であった。

【考察】検討1では, COVID-19 流行後に ALD 患者の肝機能が悪化したことが確認された。飲酒量が増加した20例中13例は COVID-19 流行が原因であった。検討2では, COVID-19 流行前に初診した ALD 患者に比して流行後初診の患者で肝障害が重篤であることが確認された。今回の研究では患者全例の飲酒動機についての詳細は検討できていないが, 少数例の問診から, COVID-19 流行による行動自粛, 就労制限や収入減少などが飲酒行動に関与していると推測される。

【結論】COVID-19 流行は ALD 患者の肝機能悪化の原因となると思われた。

## 12. 人間ドック受診者の肝硬度と生活習慣病とについての検討

<sup>1)</sup> 埼玉医療センター 臨床検査部

<sup>2)</sup> 同 超音波センター

<sup>3)</sup> 同 消化器内科

寺本実加<sup>1)</sup>, 貴田あかり<sup>1)</sup>, 奥住裕二<sup>1)</sup>,  
内山健二<sup>1)</sup>, 白橋亮作<sup>3)</sup>, 小林さゆき<sup>2)</sup>,  
玉野正也<sup>3)</sup>

【目的】Transient elastography (TE) は肝内に発生させたせん断波の伝搬速度から肝硬度 (単位: kPa) を測定する検査法である。人間ドック受診者に肝硬度測定を行い, 各種臨床パラメーターおよび生活習慣病との関連を検討した。

【対象と方法】対象は2019年11月に当院人間ドックを受診した411名である。測定結果を5kPa以上の群 (TE 高値群) と5kPa未満の群 (TE 正常群) に分け, 年齢, 性別, BMI, 血圧, 超音波上の脂肪肝の有無, 各種血液生化学検査値および生活習慣病について比較した。2群間の比較には Mann-Whitney 検定またはカイ二乗検定を用い, p 値 0.05 未満を統計学的有意差ありと判断した。

【結果】TE は377例で施行された。男性210例, 女性167例, 平均年齢は53.4 (30-85) 歳であった。測定値の平均は4.1 (1.7-16.2) kPa であり, TE 高値群は48例, TE 正常群は329例であった。両群間で年齢, 性別に有意差はなかったが, BMI は TE 高値群で優位に高値であり, 拡張期血圧も TE 高値群で優位に高値であった。超音波上の脂肪肝は TE 高値群で18/48例, TE 正常群では107/329例に認め両群間に有意差は認めなかった。血液生化学検査では, AST, ALT, GGT, 白血球, Hb, 尿酸, HbA1c が TE 高値群で優位に高値を呈した。HDL コレステロールと血小板は TE 高値群で優位に低値であった。

【考察】肝疾患の既往のない人間ドック受診者の48/377例 (12.7%) に肝硬度の高い症例を認めた。肝硬度は年齢, 性別とは関連しないが, AST, ALT, GGT などの肝機能検査との相関が確認された。一方で, 肝硬度高値群では BMI, 拡張期血圧, 尿酸, HbA1c が高値, HDL コレステロールは低値を呈しており, 肝硬度と生活習慣病との関連が示唆された。

【結論】人間ドック受診者では肝硬度と生活習慣病との関連が示唆され, 今後のさらなる検討が必要と思われた。